

(本所)

〒313-0013
常陸太田市山下町4119
TEL 0294-80-3340
FAX 0294-80-3348

(高萩駐在)

〒318-0031
高萩市春日町3-1
TEL 0293-22-3061
FAX 0293-24-0210

茨城県県北農林事務所
経営・普及部門

(常陸太田地域農業改良普及センター)



恵水コンテストを 県内で初めて開催!

JA常陸 常陸太田梨部会は9月12日(金)、常陸太田合同庁舎にて、県育成オリジナル品種「恵水」の果実コンテストを初めて開催しました。若手生産者を中心に9名が出品し、審査員が出品者の梨の果実重、糖度、外観について審査しました。果実重では最も大きいもので976gと、目標の1個1kgに届く梨はなかったものの、糖度ではほとんどが満点の14度以上で中には16度以上のものもありました。

審査の結果、庄司健太郎さんが最優秀賞、檜山真吾さんと萩谷浩司さんが優秀賞、中村貢さんと武藤春香さんが優良賞を受賞しました。

受賞した梨及び出品された梨は、9月13日(土)に「道の駅ひたちおおた」で販売され、お客様にも好評でした。



(上) 受賞した方々
(右) 審査の様子



農場見学 & 就農相談会 in 県北

11月8日(土)、農林振興公社主催で農場見学会、就農相談会が開催され県内外から17名の方が参加しました。

農場見学は常陸太田市内の萩谷いちご園で行われ、ほ場を見学しながら、就農の経緯、農業経営の特徴などについてお話を伺いました。就農相談会では8ブースが出展し、参加者に県北地域の就農に関する制度や就農支援体制と現場で求められる能力、人材確保への意欲について熱心に説明していま

した。参加者は当地域での就農を希望されている方、就農についての知識を幅広く知りたい方など

様々であり、自身の今後の進路や就農計画について真剣に質問する姿が印象的でした。



農業学園第4回講座 「販路拡大講座」を開催しました

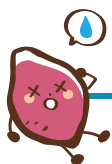
11月18日(火)に株式会社かわねや水戸大町店を会場として、農業学園第4回講座「販路拡大講座」を開催し、管内の新規就農者7名が参加しました。

今回は株式会社かわねやのバイヤーの方を講師として、販売管理についての講話と店舗見学を行い、客層に合わせた売り場・商品作りやブランディングについて学ぶことができました。

受講生からは、「常陸太田市と水戸市の客層の違いは分かりやすかった」、「売れる商品を作ることが大変重要だということが分かった」、「熱意が伝わってくる内容だった」等の意見があげられ、大変参考となったようでした。

!受講生の方々!





サツマイモ基腐病対策を行きましょう！

サツマイモ基腐病は、感染すると地上部の枯死やいもの腐敗を引き起こし、収量を大幅に減少させるとともに、周辺の苗床や畑に発生が拡大する大変危険な病害です。定植前の防除対策として、以下の取組を徹底しましょう。

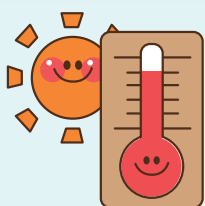
- 健全な種いもおよび苗を使用する。
- 採苗の際には、苗を地際から5cm以上離れた部分で採取し、採苗後速やかに苗消毒を実施する。

詳細は、茨城県農業技術課発行の対策資料（右のQRコード）等でご確認ください。また感染が疑われる症状を発見した際には、速やかに普及センターにご連絡ください。



育苗時の株の葉巻、萎縮症状

（写真出典：生研支援センターイノベーション創出強化研究推進事業（01020C）および戦略的スマート農業技術等の開発・改良（SA2-102N）令和4年度版マニュアル「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」より）



気候変動に対応した病害虫対策について

気候変動に伴う近年の記録的な猛暑により、高温による農作物の生育への影響に加え、農業で問題となる病害虫の発生パターンにも変化が見られています。今回は施設野菜と花きについて、対策のポイントをお伝えします。



POINT! 施設野菜

トマトの生育・収量に深刻な被害をもたらすトマト黄化葉巻病は、トマト黄化葉巻病ウイルスにより引き起こされ、タバコナジラミが媒介します。近年の気候変動の影響を受け、県内でもR6年以降、黄化葉巻病の発生株率、発生地点率ともに平年より高い割合で推移しています。

対策としては、媒介虫であるタバコナジラミの防除が重要となるため、各種対策を組み合わせる必要があります。ハウス開口部への0.4mmネットの設置、RACコード（農薬の分類コード）を参考にした薬剤のローテーション散布、黄化葉巻病耐病性品種の活用、ハウス内の黄色粘着板の設置等に取り組ましましょう。



トマト黄化葉巻病の症状

POINT! 花き

R7年のコギクやトルコギキョウなど夜蛾類の問い合わせは、例年より早い7月に多くありました。特にオオタバコガは蕾を食害するので注意が必要です。茨城県病害虫防除部の調査でも今年は発生が早い傾向が見られました。

早期に発見し、若齢幼虫のうちに防除することが重要になります。初発時の記録も残し、防除の参考にして下さい。薬剤防除にあたっては、RACコードを参考に、ローテーション防除を行いましょう。近隣に果菜類が栽培されているほ場も見受けられましたので、周りの発生状況も見ながら防除計画を立てるなど、良品生産に心掛けてください。



←病害虫防除部（茨城県）の「病害虫発生予察情報」のページ



イネカメムシの防除を行きましょう

R7年の夏は例年のない高温の影響により、この地域の水田ではほとんど見られなかったイネカメムシが見られました。イネカメムシは斑点米の発生による品質低下に加え、不稔を多発させて収量低下をもたらすため、適切な防除が必要です。

農薬防除は、出穂期（出穂0～3日後）と乳熟期（出穂10～15日後）の2回防除が効果的で、それぞれ収量向上（不稔減少）と品質向上（斑点米減少）が図れます。

また、一般的な斑点米カメムシ類は畦畔雑草で繁殖して出穂後に本田に侵入しますが、イネカメムシは、山林の下草等で繁殖しそこから直接本田に侵入してきます。そのため、畦畔草刈りでは防げないため、本田での防除が重要となります。

多発生が懸念される年は、出穂期と乳熟期の2回防除を徹底しましょう。



穂に群がるイネカメムシ

